

Life is Art
劇団☆新感線
いのうえひでのり

Inspiring Talk
アジアフォーカス
福岡国際映画祭

愛でたし伝統文化
博多おきあげ

Art Trip in 佐賀
佐賀県立美術館
リニューアル!

VOL. 67
2015
AUTUMN



発行：
公益財団法人福岡市文化芸術振興財団
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-10
福岡県消防会館 6F
TEL 092-263-6265
www.ffac.or.jp

編集：作本知枝美、下村萌
デザイン：松尾紀之、川上幸
写真：富永亜紀子(P4-6)
印刷：福博総合印刷株式会社
©(公財)福岡市文化芸術振興財団

本誌内容の無断転載、
複写はご遠慮下さい。



Contents

- Life is Art* 03 劇団☆新感線 いのうえひでのり
- Inspiring Talk* 04 アジアフォーカス・福岡国際映画祭
- アートな穴場 07 楽水園
- 愛でたし伝統文化 08 博多おきあげ
- Welcome to Artlier* 09 秋のおすすめ公演
- 福釜芸術放談 13 09 「国際芸術祭」でよかろうもん
- Pick up Artist* 10 CHINZEI ~九州映像創作ネットワーク~
- Art Event Clips* 10 イベント情報
- Art Trip in* 佐賀 11 佐賀県立美術館 鍋島緞通
- FFAC information* 12 財団からのお知らせ
- FFAC* レポート 14 財団事業報告
- おしゃべりな学芸員 15 福岡市博物館学芸員 森本幹彦

Cover Artist



Photo 水崎丈

田中千智 たなかちさと

<http://www.tanakachisato.com/>

1980年生まれ、福岡を拠点に油絵画家として活動中。2013「baram 033°37'22"N130°25'31"E」/九州大学箱崎キャンパス(福岡)「DANDANS a collective of emerging Japanese artists」Browse&Darby(London)「Imago Mundi」Fondazione Querini Stampalia(Venice) 2014 Plan Co zero「カラスとカササギ」/福岡市赤煉瓦文化館・ぼんプラザ(福岡) Plan Co #1「ソリスムンドブシ」/LIGホール、沙山インディステーション(釜山)「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ WATAGATA ARTS NETWORK」/福岡アジア美術館(福岡) 2015 個展「はてしない物語」福岡アジア美術館(福岡)

今後の予定・I am a painter(個展)/2015年10月2日~18日/横浜市民ギャラリー(神奈川)
・個展2画廊同時開催/2015年10月22日~31日/村越画廊・小林画廊(東京)
・ART TAIPEI /2015年10月30日~11月2日/(台湾)

Q

何にインスピレーションを受けていますか？

A▷映画や本、音楽、昔の絵画、または日常の出来事です。誰もしが持つ死生観や、人間の心理には良い面と悪い面が共存している。そんなところに興味があります。絵にはなるべくそのような光と影の中間地点を表現したいと考えています。

Q

黒に込める思いやイメージは何？

A▷自分が感じた記憶の中にある黒なのかもしれません。それは昔見た風景や夢の世界に見えたり、黒の中に浮かべる対象によって絵の見え方が変わって、観る人にイメージする余白を与えられるのではないかと考えています。

Q

今後の制作やチャレンジしたいことは？

A▷絵を活かせる新しい場をどんどん開拓していきたいと思っています。あとは海外で個展がしたいです。いろいろな機能を持つ、万能なアトリエづくりも時間をかけてやっていきたいです。



「知らない場所の知らない女」
2013 33.4 x 24.3 cm



「夜の工場」2013
45.5 x 53 cm

Life is Art

いのうえひでのり

劇画・マンガ的世界にコンサートばりのド派手な照明と音響を用いた構成で、演劇ファンのみならず音楽ファンをも虜にする。旗揚げ35周年を迎えさらにヒートアップする劇団☆新感線 主宰 いのうえひでのりさんにインタビュー！



© YOSHIE TOMINAGA

いのうえひでのり◎

劇団☆新感線 主宰・演出家。
1960年生まれ。福岡県出身。
1980年、劇団☆新感線を旗揚げ。

“新感線”の演目は大まかに3つの柱に分かれている。生バンドが舞台上で演奏する音楽を前面に出した「Rシリーズ」。笑いに特化した活劇、いのうえが脚本も手掛ける「ネタもの」。アクションとケレン味を効かせた演出にドラマのうねりをのせた独特の手法で、新しいエンターテインメントの形として“新感線”というジャンルを確立させた、時代活劇『いのうえ歌舞伎』。2005年には『髑髏城の七人』『SHIROH』の演出で第14回日本演劇協会賞を、2007年には『メタル マクベス』の演出で第9回千田是也賞と第57回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。最近の外部演出作に、新橋演舞場7月公演の歌舞伎『阿豆流為』（15年）、『鉦切り丸』（13年）、『今ひとつの修羅』（13年）など、また近作は2015年5月～9月上演の劇団☆新感線35周年公演『五右衛門 vs 轟天』を上演中、今冬にはつかこうへい作『熱海殺人事件』の演出を控えている。

公式サイト ⇨ <http://vi-shinkansen.co.jp/>

——いのうえ流作品作りって？パロディネタや楽しいモチーフの根源は？

現場を楽しくするまでが結構苦労はあるんですけど、作品作りは楽しんでやれること、自分がお客さんだったらどんなものが観たいかなあつ面白いかなあつて常に考えていますね。いつも人の作品を観ては、僕だったらこうしたいなあって考えていて、それを反映している感じですよ。

物心ついた時から、映画や舞台、TVが好きで、楽しんで観ていて、その蓄積が今の舞台に出ていきますね。中学生から大学生くらいまで楽しんでいたものの延長かな、演劇やり始めた頃には、やりたいと思ってもお金なくてやれなかったことが実現できてるのはありますね。新感線を始めてから今まで、規模は大きくなっていきますが、興味や基本の精神的な部分は変わっていないんです。今、面白い！と思えるものを常に作っています。

——福岡では、どんな青年時代を過ごしたんですか？

昔から、人前で何かやること、お祭りや学園祭が好きでした。今思うとそういうところが、今の僕の作風に繋がっているのかなあと思います。何かを目指して今このスタイルがあるっていうことではな

くて、イベント好き、お祭り好きが功を奏して今があります。高校生の頃、ハードロックが好きで聴き始めて、大人になっても相変わらず聞いていて、そこもその頃のままだんです。ロックコンサートのオープニングのカッコよさとか、いろんなライブの演出は参考にしていますね。

——福岡出身の脚本家中島かずきさんとはナイスタッグですね？

基本的には劇団☆新感線は彼の脚本でやる、神話的なテーマとも福岡で高校演劇をやっている、県大会で僕の作品を観た中島さんが「おもしろい！ぜひ僕の書いた本でやって欲しい」と脚本を送ってきたのがきっかけで、それも40年近く続いていて変わらないところで

——演出やキャスト選びへのこだわりは？

昔ながらの舞台演出の手法も使いつつ、そこに新しいものを取り入れつつやっています。出演者も僕のスタイルややりたいことを理解してくれているので、ダメだしもするけど、役者に任せているところもあります。ただ、人気の役者さんを集めるのは大変なんです。タイミン

グとか会社の思惑とかもあるから。出演してくれる役者さんは、僕のやってみることをみんな面白がってくれて、新しいことやってるっていう感覚があるから協力してくれま

す。僕はキャストイングには恵まれているなと思います。

——成功の秘訣とかありますか？

そんなのはないですね（笑）。好きこそものの上手なれっていうでしょう、とにかく好きなことを続けていたから今がある。貫いてるとかじゃなくて、これしかなかったんです（笑）。これ面白い、こんなのやってみよう、次はこの人と一緒にやりたい、っていうのが繋がっています。たくさんいろんなことに挑戦してみ

て、泡みたいに浮かんで消えな

かったものをアイディアが今残っています。35年間で、いっぱい消えていったものもありますよ、大変だった時期もありました。

——今後の活動は？

いっぱいやりたいことはあるんだけど、これからは、寝なくてもよかった若者時代と違って、限られた時間の中でどれだけやれるかなあつて思っています。

今後は、続けてきた「いのうえ歌舞伎」や、もつとばかなこともやっていきたいね。

アジア映画の魅力を語ろう

今年で開催25周年を迎える

アジアフォーカス・福岡国際映画祭が間もなく開幕。

なぜアジア映画なのか、

その魅力や映画祭開催秘話を

映画祭ディレクター・梁木靖弘さんと

シネマコーディネーター・古山和子さんに

語っていただきました。

映しても成り立ちますが、比較的小規模なアジアフォーカスは、一般の人にも楽しんで観ていただける映画祭としてやっていますので、そこを考えながら選んでいますね。
古山▼それならアジアの映画を初めて観るといっても楽しんでいただけますね。

毎年、福岡でしか見ることができない映画っていうのを楽しませてもらっているんですが、これだけのアジア映画を観られる映画祭って珍しいですよ。

梁木▼東京や大阪にはありません。今は当たる映画でないと一般公開されにくいので、ひとところに比べるとアジアの映画を映画館で観る機会も減ってきましたよね。短期間でこれだけの質のアジア映画を網羅した映画祭はなかなかないと思います。

近くて遠いアジアの国々

古山▼同じアジアなのに知らない国の作品もありますよね。アジアフォーカスの期間中は、観終わってから地図を広げて国を探してみたりして楽しんでいきます。

梁木▼そうですね、映画を観ると、旅行に行った後みたいに、よく知らなかった国の地図が立ち上がって見えるような感じがするんですね。

古山▼記者発表試写会で観せて頂いた「山嶺（さんれい）の女王 クルマンジャン」、とっても感動しました。実在したキルギスの女帝の話でしたね、民族間の争いが激し

はりきやすひろ

梁木靖弘



ふるやまかずこ

古山和子

アジア映画と出会う旅

古山▼いよいよ今年25周年ですね。いつもたくさんのいい映画を上映してくださっていますが、作品をどんな風に探されているんだろうって大変興味があります。

梁木▼世界中でいろんな映画祭がサーキットのように行われているんです。他の映画祭と重ならないように、若干時期をずらしながら開催されています。その中でアジア映画の新作がたくさん上映される映画祭に行つて、まず探します。10本くらい観て1本いい映画を見つければいい方で、なかなか良い作品に巡り会うのが難しいんです。

古山▼そんな大変な苦労があるんですね。こういった基準で映画を選んでいるんですか？

梁木▼大きな映画祭だと前衛的なものや実験的な作品を上



Photo AKIKO TOMINAGA / CANAL CITY HAKATA2015 ©FUKUOKAJISHO

かった時代に指揮を執る女性のパワーを感じる映画で、私
たちも見習わなきゃと思うところがありました。それに、
民族衣装や生活の様子もとっても興味深かったです。

梁木▼そうですね、舞台となったキルギスって聞いたこと
あるけど、あんなすばらしい映画を作ってるんだって
ことは知らなかったし、あれほどの歴史大作を作る監督も
いるなんてびっくり、貴重な作品なんですよ。俳優陣もあ
たり前のように馬を乗りこなし、すごい数の馬が大地を疾
駆するシーンを観るだけでも圧倒されましたね。

古山▼キルギスへなかなか行けないけれど、現地に行った
気分になりましたね。監督さんに製作についていろいろ質
問してみたいですね。

これほどたくさん異なるアジアの国の映画があると、翻
訳も大変ではないですか？

梁木▼そうですね。翻訳の苦労はありますね。アジアの
映画は作品の中にいろんな言語が使われていることがよく
あって、字幕はすべて日本語になっていますが、ひとつの
作品の中でも言語が複雑に使われたりして面白いらしいの
ですが、ニュアンスまではわかりません。

古山▼そのニュアンスを表現していくのが大変でしょうね。
私たちが楽しんで観ている映画の裏側で大変なご苦労があ
るんですね。

梁木▼今回はインドネシア映画の特集をしますが、インド
ネシアはたくさんさんの言語が使われている国で、そもそも共
通語がなく、インドネシア語は標準語として学校で教育さ
れたものらしいです。インドネシアの中心的監督リ・リ
ザの作品や、外国の映画祭向けに作品を作り続けている巨
匠ガリン・ヌグロホ監督の「オペラジャワ」というすごい
作品もあります。この特集を観れば、インドネシア映画の
現状がなんとなく俯瞰できるといふふうに考えたプログラ

ムです。

さらに、今回の特集では映画上映だけでなくインドネシア
のコンテンポラリーダンスもキャナルシティ博多のサンプ
ラステージで上演します。ぜひ、この機会にインドネシ
アの文化に触れていただきたいですね。

アジア映画の魅力

古山▼映画を観ると私たちの知らない国の文化が見えてき
ますね。すぐ近くのアジアの国のことなのに実はよく知ら
ないですよ。人々がどんな服を着て、どんな生活をして
いるのか、初めて知ることがたくさんあって、知的な刺激
を受けますよね。

梁木▼ぼくらはあたり前のように欧米の映画を観るのです
が、そもそも他人事です。だから安心して見てしまうところ
がある。でも、似たような顔、肌の色をした人々が出て
くる映画を観ると、何か他人事とは思えない感じがして、
平気ではいられないところがあります。近いから、ちよっ
とした違いに不意を突かれたり、深く感動したりする、そ
れがアジア映画の魅力だと思うんです。

古山▼そうですね、映画を観て、女性や子どもたちの問題、
課題を突き付けられる瞬間が多々ありますね。

梁木▼昔は欧米の映画を観て、その暮らしぶりや人のカッ
コ良さに憧れていたところがあると思うんですが、物質的
に豊かな生活ができるようになって今、求めるところはそこではな
いかもしれないと思いはじめていま
す。価値観が変化してきていると
思うんです。アジアの文化を知る
ことは豊かさや貧しさの基準をも



「アジアフォーカス・福岡国際映画祭2015」 Focus on Asia International Film Festival Fukuoka 2015

会期▶2015年9月18日(金)~25日(金)8日間

会場▶キャナルシティ博多内、ユナイテッド・シネマ キャナルシティ13、ぼんプラザホール、など

料金▶①1作品券▶前売1,100円/当日1,300円 ②5作品券▶前売4,400円/当日5,500円

③フリーパス券▶前売11,000円/当日13,000円 ④中高大生・留学生▶前売割引無し/当日500円(学生証等の提示が必要) ※小学生以下無料

チケット取扱い▶福岡国際映画祭インフォメーション080-8564-5475(9/1~25,10時-17時)

公式HP▶<http://www.focus-on-asia.com/>

◎アジア各国・地域(日本を含む)を中心とした22カ国・地域の新作・日本未公開作品等の公式招待作品を約15作品、また特集上映を含め、全45作品を上映します。

◎特集上映として：インドネシア大特集「マジック☆インドネシア」、日本映画特集「幻想の南洋」、ドキュメンタリー特集「アジア・リミックス」も開催。

1952年福岡市生まれ。早稲田大学大学院修了。国際演劇評論家協会(AICT)会員。

2007年からアジアフォーカス・福岡国際映画祭ディレクター。

訳書にコクトー「映画について」ミック「コメディア・テラルテ」ドゥコー「パリのオフエンバック」他、著書に「聖なる怪物たち」「渚のモダニズム」など。



う一度見直すきっかけになるのではないかな。これから発展していくアジアの国々は、欧米を追いかけてきた日本の後を追いかけるのか、それとも日本と違う生き方を選択するのかとても興味があります。欧米とは違うもう一つの生き方を探る手がかりになるのではないのでしょうか。アジア映画は日本を見直すきっかけになりえると思うんです。

おすすめ作品

古山▼今回は8月のプレイベント上映会を含み、22か国・地域、全45作品を上映されるそうですね。

梁木ディレクターの今回のおすすめ作品ってどれでしょう？

梁木▼僕はどの作品も自分で選びましたので、すべての作品を子どものように思っていて順番を付けられないのですが、ニュージーランドのマオリ族のチェスの天才の不遇な生涯の話「ダークホース」っていう映画はまさに大穴でしたね。これはぜひ見て欲しいですね。

古山▼初めてアジア映画を観る方でも楽しめる映画はありますか？

梁木▼香港・中国の映画「Little Big Master (原題)」は実話を基に作られている子どもたちと保育園の園長についての映画で、どなたでも共感して、楽しんでいただける作品だと思います。

コアな映画ファンにおすすめしたいのが、ドキュメンタリー特集で英語字幕のみで上映する作品なのですが、トルコとドイツの共作映画「Remake, Remix, Rip-off」というトルコの大衆映画史を扱った作品。アメリカ映画のパクリばかりしていたという、著作権もへっ

Inspiring Talk

06

たぐれもない、当たればちやちでもなんでもOKというトデモ映画界の歴史です。突っ込みどころ満載で、笑えておもしろいんです。大衆文化ってこういうものだって納得させられるような作品ですね。これは観損ねるともう観るチャンスはないかもしれません。

古山▼この期間中はもう予定を空けておかないといけませんね。

映画は「窓」そこから見えること

古山▼いつも楽しみにしているのが、上映後の製作者との質疑応答のコーナーでもあるんです。ついぼろりと出てしまふ、作り手の本音を聞くと、あくそんな苦労の中製作しているんだなあと感心したり、とつても興味深く聞いています。

政治や経済的な理由でなかなか国から出られない製作者もいるそうですね、映画祭に招待しても来て

ただけないこともあるようですが、今年はどうですか？

梁木▼そうですね、ぼくらが当たり前だと思っただけのことでも、国の情勢や宗教上の理由から答えられないような場合もあります。アジアの国々との交流はデリケートなことがたくさんあります。そういった違う世界を知ることができるのもこの映画祭の醍醐味だと思います。今年は、公式招待作品のほぼ全作品の監督、又は関係者が福岡にやってくる予定です。

古山▼そうですね、それは素晴らしい。たくさんお話を聞いてみたいですね。他のアジアの国々での映画製作はそう簡単なものではなく、過去には国内で上映できない作品を命がけて製作して海外で発表している監督もたくさんいましたよね。



シネマ・コーディネーター

古山和子

ふるやまかずこ

元RKB毎日放送アナウンサー。

深夜放送「ユアアンドミー」や「ザ・モーニングダイアル」など人気番組を担当。

現在はシネマ・コーディネーターとして、放送や講座、フリーペーパーなどで映画の魅力を紹介。

アジアフォーカスでは長くオブザーバーとして参加。

アートな穴場

池泉回遊式 日本庭園

楽水園

福岡市博多区住吉2丁目10番7号
☎092-262-6665
http://rakusuien.net/

博多のビル街に佇む、憩いの日本庭園。

ビジネス街から歩いてすぐの場所に位置する“都会のオアシス”。突如現れた、博多塀に囲まれた緑豊かな森に足を踏み入ると、美しく手入れされた日本庭園が広がります。秋には60本のイロハモミジが庭園をいどどり、滝の音が都会の喧騒を忘れさせてくれます。茶庭や水琴窟を眺めながら、お抹茶をいただけます。（お抹茶 300円）



提供：福岡市

開園時間◎午前9時から午後5時

休園日◎毎週火曜日(当該日が休日の場合は、その翌日)

1月2日・3日は開園。12月29日～1月1日は休園

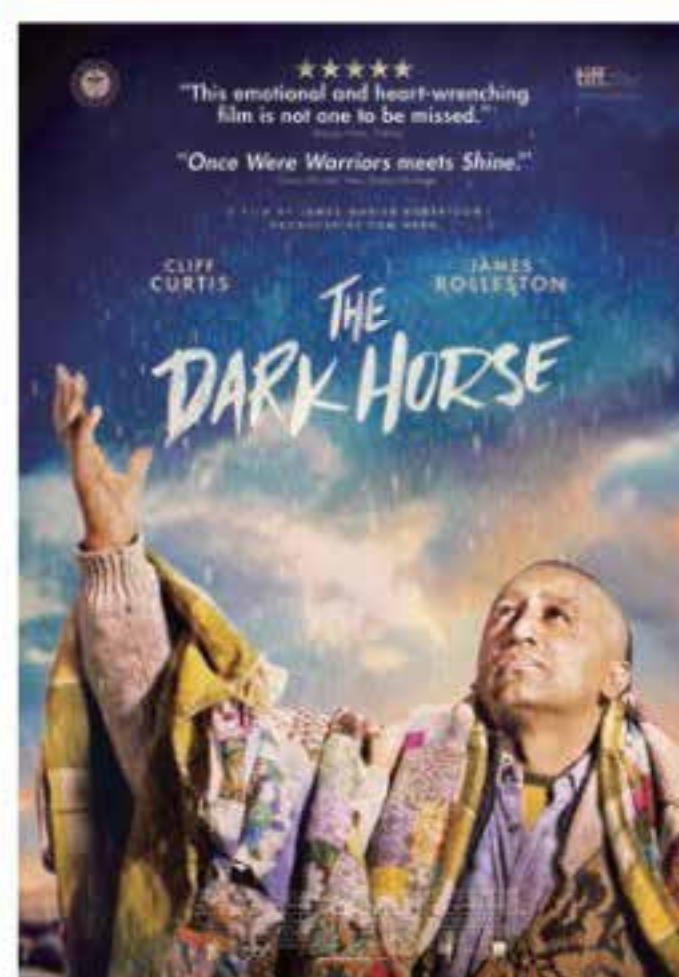
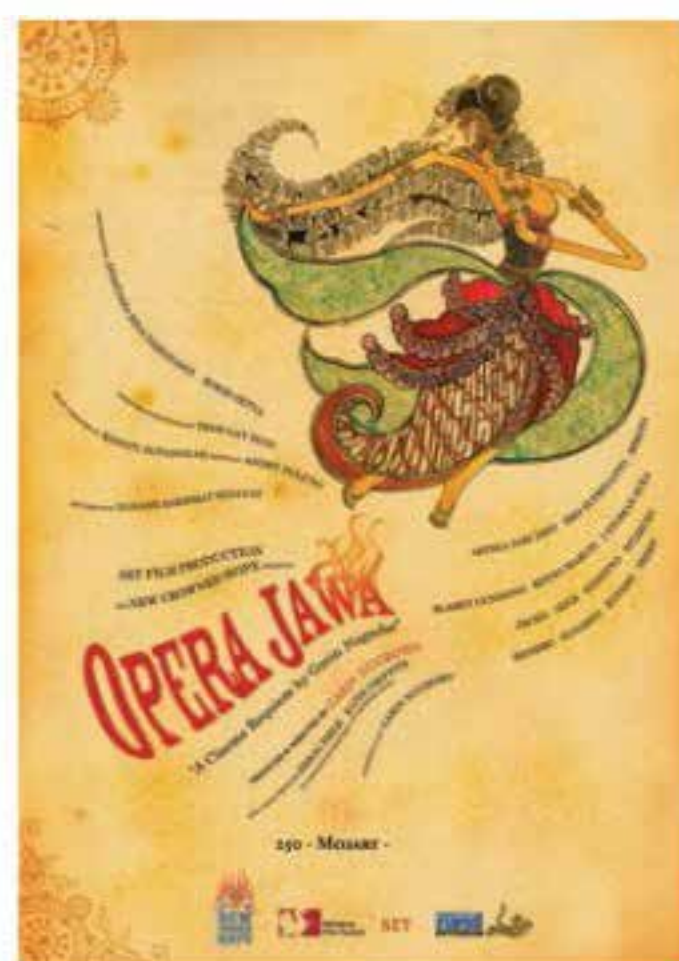
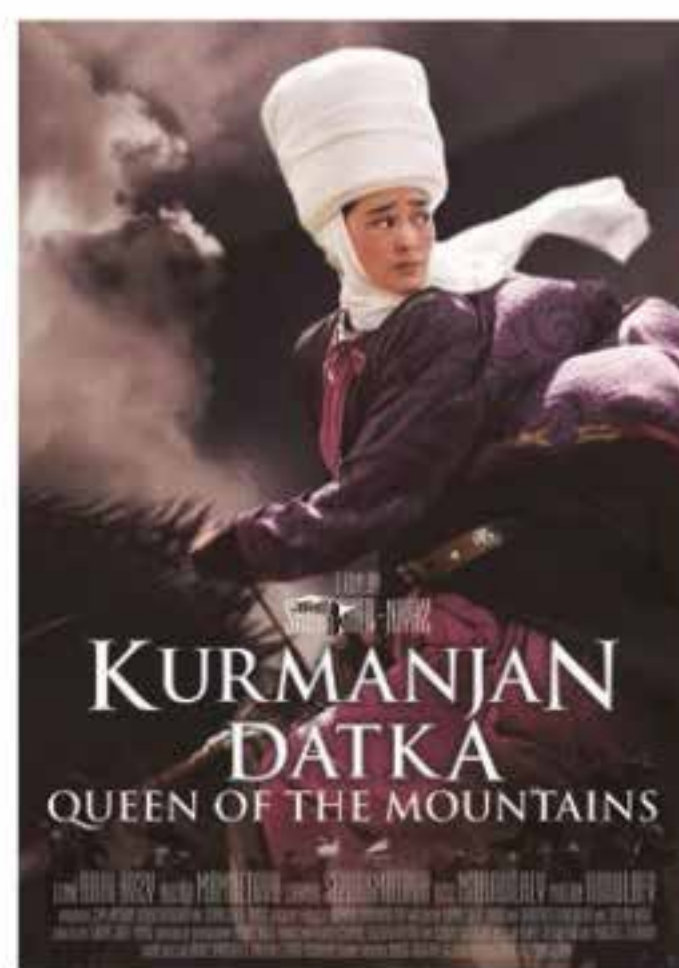
入園料(一人)◎大人100円(80円)。小人50円(40円)

※()内は団体料金、小人は中学生以下、団体は30名様以上です。

※無料：小学校入学前の方、福岡市居住の65歳以上の方、心身障がい者の方とその介護者

※シルバー手帳、療育手帳、身体障がい者手帳、精神障がい者保険福祉手帳を提示してください。

※わの会会員様は団体料金でご入場できます。



上映作品のオリジナルポスターの一部です。会場でぜひご覧ください。

梁木▼そう、困難を乗り越えても映画にして伝えなければならぬというミッションを持って作り続けている監督もたくさんいます。

古山▼ますます複雑化していく社会情勢の中、近くて遠いアジアの国や地域の文化や社会のことを知ると、私たちが平和で暮らせていることは当たり前ではないことにも気づかされますね。アジア映画ファンの私からも、ぜひ、この機会にもっと多くの方に、まるごとアジアの文化を知って

楽しんで欲しいと思います。

梁木▼映画は勉強じゃなくて、楽しみながら観て、気づいたら知識がついているっていう素晴らしいものだと思えます。映画は”窓“だと思えますね。その窓をのぞくと世界中が見えてくるんです。ぜひ多くの方に気軽にその窓をのぞきにきて欲しいですね。アジア映画の魅力に引き込まれていくと思います。

「博多おきあげ」 基礎知識

花鳥や人物に模った厚紙に綿で高低差を付け、絹布や金襴で包んでいく、「押絵」として知られる手工芸品。博多ではおきあげ（置き揚げ・浮き上げ）と呼ばれる。元は、浮世絵師が下絵を描き、題材は役者絵が多く歌舞伎と共に発展。幕末頃、現博多区須崎町にいた画家村田東圃の妻ちかこが広めたといわれる。かつて、女性の教養のひとつとして広く親しまれた。



しみずきよこ
清水清子 さん(78)

伝統工芸博多おきあげ作家。母からおきあげの指導を受けて、60年間おきあげを作り続けている。技術の伝承と普及に力を入れ、公民館の教室などで指導を行っている。

お問合せ

清水清子
092・524・4477

第5回 博多おきあげ

博多には、女の子が生まれると、新春のお祝いに、祖母が手作りのおきあげの羽子板を贈る習慣がある。今では消えつつあるこの習慣やおきあげの技術がなくならないように、

愛でたし 伝統文化

公民館や教室での指導など伝承に力を入れている。なるべく多くの方に、おきあげに親しんでもらいたいと、現役で博多おきあげを作り続けている清水清子さんを訪ねました。



まずはシンプルな曲線で下絵を描き、厚紙に下絵を写し取り、台紙を作る。切り取った台紙に綿をのせ、絹布で包んで裏を糊で貼る。若い女性の顔は、部分的に綿を足しふくらとした表情を表現していく。布の張りを確認しながら皺になっ

ズルのピースのようにできあがったパーツを下絵の通りに組み合わせていく。顔の部分は日本画に使う顔料と膠（にかわ）で化粧をするように色づけをする。「面相の工程はおきあげの肝となる。顔がうまく描ければ画が



引き締まる。」と清子さ

んは言う。かつては、

羽子板等の表面を作る押

絵師と、顔を描く面相師の共

同作業で成り立っていたが、継承者が減っていく中で顔が描けないと作品が完成しない、と清子さんの母が学んだ面相の技術を受け継いだ。顔を描くときはその時の心情が現れてしまう。同じ顔を描いても違った表情に見えることもあり、いつも穏やかな気持ちで顔を描いているという。

以前、80代の女性からおきあげの修復依頼がきたことがあった。聞けば、その方の誕生のお祝いに祖母が手作りして贈ってくれた大切なものだという。清子さんは「お教えしますから、ぜひあなたがご自分で修復なさっては？」と声掛けし、完成したときは大変喜ばれたという。技術や想いを伝えていくことを第一に考えているからだ。

教室での指導や制作に追われる日々、忙しく苦労した時期もあったが、母からの「苦労するために教えたんじゃないのよ」という言葉を今でも覚えている。

だからいつも穏やかな心で、教室でもゆつたりと楽しんで作り上げることを大切に伝えていくという。やめたいと思っただけは一度もなく、「好きだから続けてこられた。一生続けられることをみつけられると良いですね」と清子さん。

現在は、娘さんに技術を引き継ぎ、それぞれのスタイルでおきあげ作りに取り組む。祖母から孫へ、母から娘へ、あたたかい想いが包み込まれた博多おきあげの手作りの文化が広がっていき、願って。



①



②



③

①②③原画:西島伊三雄 制作:清水清子

④原画:制作:清水清子



文化芸術情報館 アートリエ

文化芸術の普及振興のため、全国各地の情報を収集、発信する施設です。イベント情報の提供やチケット販売を行うほか、アートイベントを開催しています。お気軽にお立ち寄りください。

〒812-0027 福岡市博多区下川端町 3-1
リパレインセンタービル 7F

(福岡アジア美術館内)

営業時間▷10:00～20:00

(チケット販売・わの会入会受付は19:30まで)

休館日▷毎週水曜日

(水曜日が祝休日の場合はその翌平日)、

12月26日～1月1日

※福岡アジア美術館の休館日に準じます。

お問合せ▷

TEL092-281-0081 FAX092-281-0117

優待割引チケットの販売も行っています。

発売情報はメルマガでチェック!

メルマガ登録はこちら



Welcome to Artilier

アートリエ

カウンタースタッフ
おすすめの公演!

12年間・24回
リサイクルシリーズ 2006～2017

小山実稚恵「音の旅」

第20回

～究極のアリア～

人気・実力ともに日本を代表するピアニストによる12年間・24回にわたる壮大なリサイクルシリーズ。今回はイメージカラーを「金:孤高の存在・特別なもの」と設定し、究極のアリアをお届けします。

プログラム▷シューマン: 花の曲 作品19

J.S. バッハ: ゴルトベルク変奏曲

(アリアと30の変奏曲)

ト長調 BWV. 988

公演日時▷2015年11月8日(日)14:00 開演(13:30 開場)

会場▷FFG ホール(福岡市中央区天神 2-13-1)

チケット▷指定席 4,000円

ペア券 7,500円

自由席 3,000円(当日券は各500円UP)

※6歳未満のお子様はご入場いただけません。

チケットに関するお問合せはアートリエまで!

小山実稚恵さん



私が最も尊敬するバッハの『ゴルトベルク変奏曲』。今年は30周年なので、それとかけて1つのテーマと30の変奏でできているこの作品を取り上げました。私自身にとって重要な作品で、楽譜はピアノの横に必ず置いています。作曲家にとって、変奏曲は最終目標のひとつかもしれませんが、『ゴルトベルク変奏曲』は究極のアリアと究極の変奏。ここは語るまでもなく“金の存在”。



チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノコンクールの二大コンクールに入賞。

2005年度

文化庁芸術祭音楽部門 大賞

2013年度

東燃ゼネラル音楽賞洋楽部門 本賞

2013年度

レコード・アカデミー賞器楽部門

「シャコンヌ」

林よしのりさんの漫画「ゴーマニズム宣言」には毎回文末に「こーまんかましてよかですか?」という決めゼリふがある。作品内容はここでは置くとして、この「よかですか?」に注目したい。前回、釜山弁を紹介したが、今回は博多弁である。この「よか」は結構意味が曖昧でそれだけに逆に使い勝手がいい。「よかよ」と言った場合、どういう状況でどういう調子で言ったかによって意味合いが変わってくる。「OKです」と肯定にもなるし、「結構です」と否定にもなるのだ。

福釜芸術放談

13

「国境芸術祭」でよかろうもん

談していたのだが、交流が実際に活発化するにつれて状況の後追いになり、個別具体的な課題に触れることが多くなってきた。今回も触れたい課題はあるが、少しお休みして原点に立ち返って放談したいと思う。というわけで……。「かましてよかですか?」

海に囲まれた日本人には実感しにくいのが、世界中にはたくさん国境がある。米国とカナダ、メキシコ、中国とベトナム、北朝鮮、モンゴル…欧州などは国境だらけだ。「お隣さん」とは歴史的な関係も深いのが、様々な摩擦、問題を抱えているはずだ。きつとこうした国境地帯で、国を往来しながら活動するアーティストがたくさんいるのではないか? 私はその「国境芸術祭」の開催を提唱したい。海を挟んで国を接する福岡と釜山。一方が

「우리가 남이가! (ウリガナミガ)俺たちは他人かい?」と問い、一方が「よかよか」と応じられる関係がしっかりと築けた暁には、世界中の国境地帯で活動するアーティストがこの地に集う芸術祭が開けないかと夢想するのである。

内門博

西日本新聞記者。最近、韓国のシットコムドラマ「まるごとマイラブ」全210話を4年がかりで見終えて感無量。著書に「校歌を歌えば」(書肆侃侃房)

下津 優太●1990年生まれ。福岡県北九州市出身。佐賀大学入学後、映像制作を始める。演出・脚本・撮影・編集まで、幅広く活動しており、現在は、佐賀県のTV-CMを中心にを手がけている。

中村 周一●1982年生まれ。福岡県福津市出身。九州産業大学芸術学部デザイン学科卒業。東京一福岡の映像・CM業界が主戦場。映像のプランニングから絵コンテ作成、演出、プロデュース、編集、AE合成・モーショングラフィックスまでこなし、映画では脚本も担当。

橋 剛史●1987年生まれ。福岡県行橋市出身。東京フィルムセンター映画・俳優専門学校を卒業後、地元を拠点に活動を開始。短編映画『心臓の弱い男』が、米国アカデミー賞公認映画祭ショートショートフィルムフェスティバル&アジアに入選した他、国内外15カ所の映画祭で上映される。



下津 優太

中村 周一

橋 剛史



九州の豊かな人とロケーションを使って、「Made in Kyushu」の映画を作りたい!!

~九州映像創作ネットワーク~

Pick up Artist

2010年映像制作の現場や、福岡インディペンデント映画祭で出会った3人。繋がりを大事にしたいとの思いが重なった。福岡だけでなく九州とその周辺地域で活動する映像クリエイターが集えるネットワークをとの思いを込めて、CHINZEI(鎮西)と名付け、2013年10月にグループを結成。様々なスキルを持った個人が繋がっていく場を広げていきたいと話す。映像監督の3人を中心に若手クリエイターたちの拠点として稼働中!

反響するクリエイターの熱いおもい。福岡フィルムコミッションからのオファーを受けて、フィリピンの映画監督率いる映画製作チームに、福岡でのロケ地のセッティングや、出演者のオーディションなどのコーディネートとして参加しました。SNSやメールで打合せをし、最初は、相手が何を求めているのか理解するのに時間がかかり、言葉の壁にぶつかるともありました。しかし、大変だったのは彼らが現地入りしてからです。4日ほどの撮影に同行しましたが、突然ゲリラ撮影を始めたり、困惑させられることも多々。でも、僕らも制作者の気持ちがわかるし、だんだんやらせてあげたくなっていました(笑)。

撮影現場では、スモークを表現するために、装置を使わずに線香を焚いたり、代用品を使って制作費をかけない工夫をしていました。アイデア次第で高い機材を使わなくてもいい映像を作ることができると学ぶこともありました。線香の煙でスタッフの喉を傷めて大変でしたけど(笑)。楽しい雰囲気現場は進んで行き、あ〜こんなふうに楽しんで制作していいんだなあと思いました。今後さらに、アジア各国の人たちと繋がって映像の可能性を追求していきたいです。いつも生活のふとした瞬間に、これを映像にしたら面白そう〜って思っています。



★福岡ロケをコーディネート(2015)

アジアフォーカス・福岡国際映画祭2015 公式招待作品

『インビジブル』フィリピン・日本 / 2015

まもなく作品公開! [9/20(日)・23(水・祝)・25(金)] → 関連記事P4~6

公式HPで作品を観ることができます。

<http://www.chinzei.jp/>

札幌国際短編映画祭 入選!!



『そらダン』

日本 / 2014

★北九州市の事業、北九州芸術劇場 × スターフライヤー
なかなか普段は入れない滑走路や機内での撮影は貴重な体験。



『はんたま』

日本 / 2014

★九州ショートフィルムプロジェクト
別府に滞在し、2日間で撮影と上映をやってしまうプロジェクト。九州各地で実施予定!



『コマプリ』

日本・台湾 / 2015

★台湾企業のCM制作
いろんな業界の方と出会い、紹介を受けて、今いろんな映像制作の仕事ができています。



アクロス・クラシックふえすた

10月3日(土)・4日(日)

アクロス中が音楽であふれる2日間。数えきれないほどの楽器が大集合する「楽器ふえすた」や、初心者向けの体験レッスン、無料のコンサートなど楽しみ方はさまざま。プロの演奏を2日間存分に堪能できる「ふえすたコンサートシリーズI」(1,000円)もお聴きのがしなく!



アクロス福岡 イベントホールほか

アクロス福岡チケットセンター
福岡市中央区天神 1-1-1
☎092-725-9112

シネラ 特別企画 ドキュメンタリー・パノラマ

10月3日(土)~10月24日(土) ※休館日・休映日除く

近年話題となったドキュメンタリー映画の秀作を上映。「アクト・オブ・キリング全長版」「先祖になる」「三姉妹雲南の子」など全10作品。観覧料◎600円(大人) 500円(大学生・高校生) 400円(中学生・小学生) ※定員制。各回入替制。※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は300円(手帳の提示が必要です)。※「わの会」会員は300円。(会員証の提示が必要です。)



福岡市総合図書館

福岡市早良区百道浜 3-7-1
☎092-852-0600
<http://www.cinela.com/>

「三匹のおっさん」

11月5日(木)~26日(木)

「還暦を超えてもジジイと呼ばせねえ!」テレビドラマ化もされ大好評を博した原作の舞台版が博多座に登場します。かつての悪ガキ三人組による痛快活劇をお楽しみください。※9月12日(土)午前10時より電話予約・インターネット発売開始



博多座

福岡市博多区下川端町 2-1
☎092-263-5555
<http://www.hakataza.co.jp>

Art Trip

in 佐賀

7月2日にリニューアルオープンしたばかりの
佐賀県立美術館とその周辺の
アートスポットをご紹介します!

“体に良いものを
よりおいしく”
佐賀の食文化を発信

さがレトロ館

明治20年、佐賀県の警察部庁舎として建築されたモダンな建物。Made in SAGA の食材を使った料理を提供するレストランやカフェのほか、食のノーベル賞といわれる「スローフードアワード」に選ばれた武富勝彦さん監修の物産品を販売!こだわりのベーカリーも。

佐賀県佐賀市城内 2-8-8
TEL◎0952-97-9300
詳しくは▷<http://www.saga-retro.com/>



佐賀牛100%のハンバーグをサンドしたボリューム満点“さが佐賀牛米子サンド”



古代米(黒米)を使ったロールケーキやソフトクリームも絶品!

日本最古の
木綿手織絨毯の伝統がここに

鍋島緞通吉島家 緞通ミュージアム

佐賀藩主に愛用された日本最古の木綿手織絨毯「鍋島緞通」。緞通伝来の歴史や現代に受け継がれた作品を観ることができます。

佐賀県佐賀市赤松町 1-28
TEL◎0952-24-0778

詳しくは▷<http://www.nabeshimadantsu.jp/>



蟹牡丹緑二重雷文 灰地 95×191 cm

鍋島緞通ギャラリー「緞~dan」

緞通を織る職人さんの仕事場を見学できます。

佐賀県佐賀市唐人二丁目 4 番 2 号
TEL◎0952-28-1890

※その他、徒歩圏内に鍋島藩の歴史を知ることができる「佐賀城本丸歴史館」、「徴古館」があります。



saga art trip

開催中! ~ 12/6(日)
チラシをゲットして、佐賀中心街のアートをお得に楽しもう! カフェギャラリーやアートなスポットが紹介されています。(割引クーポン付) 抽選でプレゼントが当たるスタンプラリーもあるよ。

ホワイトキューブへ大変身!

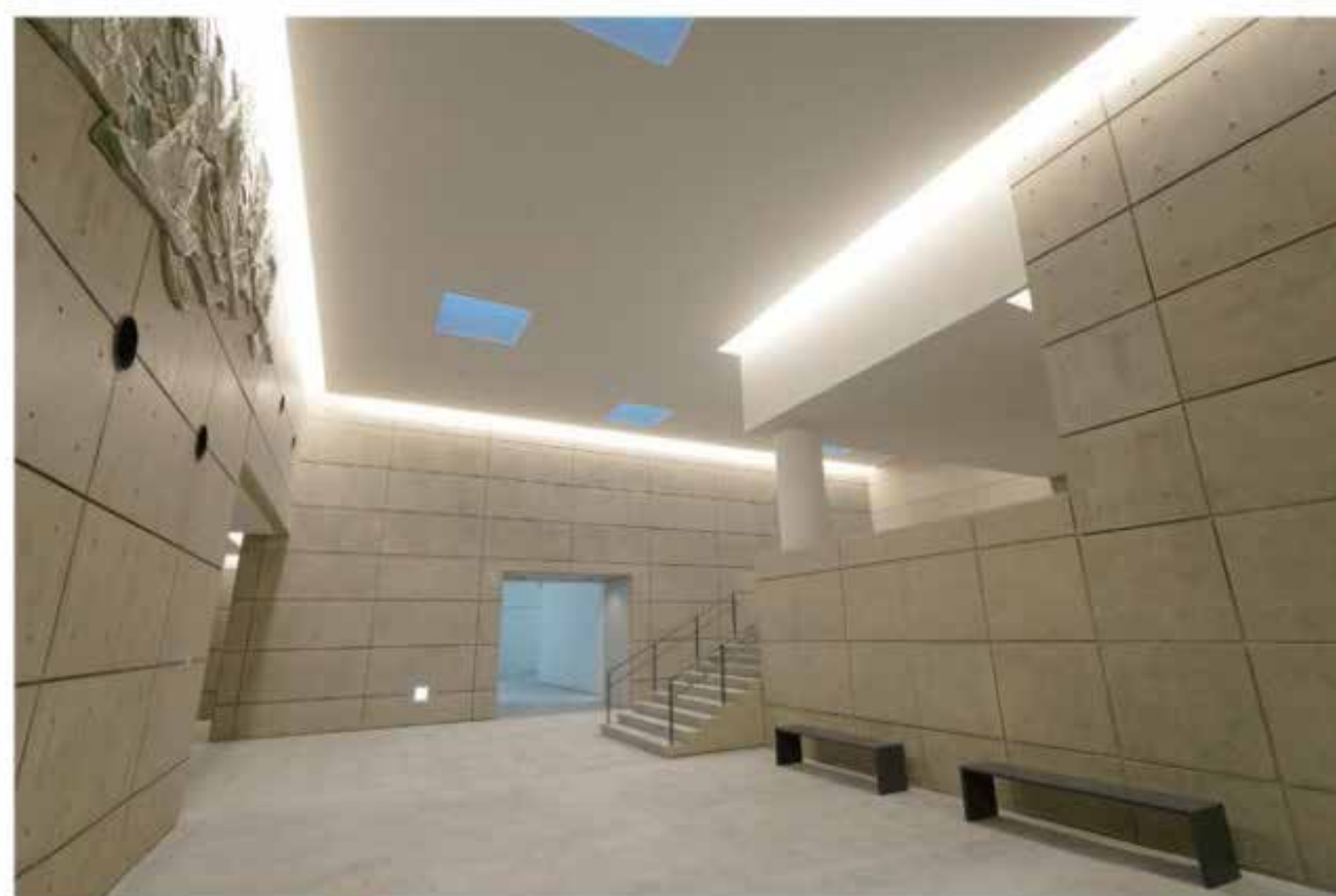
佐賀県立美術館

デザイナー吉岡徳仁監修の下、リニューアルオープン! 白を基調としたシンプルな内装と緑を臨む休憩スペースが心地よい。

佐賀県佐賀市城内 1-15-23

TEL◎0952-24-3947

詳しくは▷<http://saga-museum.jp/museum/>



リニューアル記念

●京都六道珍皇寺“心音図”奉納記念
「中島潔“今”を生きるーそして伝えたいことー」展
8/12[水]~9/23[水・祝] 有料

●「ユトリロとヴァラドン」展
10/24[土]~12/6[日] 有料

OKADA-ROOM

明治~昭和初期に活躍した日本近代洋画の巨匠・
おかださぶろうすけ
岡田三郎助を紹介する常設展示室“OKADA-ROOM”を新設。シンプルモダンな展示室が、作品をさらに美しく際立たせます。

※9/18より作品の入れ替えがあります。展示作品については変更される場合があります。



岡田三郎助《矢調べ》
1893年
佐賀県立美術館蔵
佐賀県重要文化財



岡田三郎助《裸婦》
1935年
佐賀県立美術館蔵
佐賀県重要文化財

FFAC information

芸術祭

第52回 福岡市民芸術祭開催!



福岡市民芸術祭は、福岡市民の文化芸術活動の発表の場、身近に触れ合う場として、毎年秋に開催されている「芸術のお祭り」です。昭和 38 年の福岡市民会館オープンを機に、総合的な芸術祭として翌年誕生し、平成 27 年で 52 回目。今年も 120 を超えるプログラムが福岡の街を彩ります。初日の 9 月 27 日 (日) には、オープニングセレモニーを開催します。

開催期間◎平成 27 年 9 月 27 日(日)～12 月 6 日(日)
 オープニングセレモニー◎平成 27 年 9 月 27 日(日) ソラリアゼファ
 ◎他、多数のプログラムがあります。
 詳しくは福岡市民芸術祭公式ホームページをご覧ください。<http://www.fcaf.jp/>



福岡市美術連盟 創立20周年記念展
 日時◎10月27日(火)～11月1日(日)
 場所◎福岡市美術館
 (中央区大濠公園)
 概要◎福岡の美術界をリードする約 200 人の会員による日本画・絵画・彫刻・工芸・写真・グラフィックデザインの展示
 主催◎福岡市美術連盟



福岡短編アニメーション映画祭2015
 日時◎11月8日(日)
 場所◎LIV LABO
 (中央区大名1丁目)
 概要◎国内外で活躍する日本のアニメーション作家10名による作品を紹介する、福岡初の映画祭。
 主催◎Knee, (松本亜耶子)



アソビバ
 日時◎11月26日(木)～30日(月)
 場所◎レクルン福岡天神教室
 (中央区大名2丁目)
 概要◎大人も子どもも楽しめる、組み立型パネルKUMICAを使った参加アートイベント
 主催◎アソビバ制作委員会



第23回 SEGUEの音楽物語『魔法使いの弟子』と『かさじぞう』
 日時◎12月5日(土)
 場所◎アクロス福岡円形ホール
 (中央区天神1丁目)
 概要◎22年間継続している子どもから大人まで楽しめる音楽劇。今年は影絵も楽しめる。
 主催◎音楽物語グループ SEGUE

演劇

伝統芸能入門「文楽」



豊竹始大夫



竹澤團吾



桐竹紋臣



徳永玲子

日本の伝統芸能を、楽しく、気軽に知るイベント。第1回は人形浄瑠璃 文楽をとりあげます。太夫、三味線、人形の三業が一体となって織りなす文楽は、世界のどの人形劇とも一線を画す伝統芸能です。その魅力について、文楽を生みだす演者である技芸員の方々に話を伺います。聞き手は、自身も日舞の師範であり伝統芸能に造詣が深い、「アサデス。」でおなじみの徳永玲子氏。トークのあとは実演で「伊達娘恋緋鹿子」から「火の見櫓の段」をご覧ください。



日時◎10月18日(日) 14:00
 場所◎あじびホール(博多区下川端町 3-1 福岡アジア美術館 8F)
 入場料◎1,000 円
 定員◎80名(先着順)
 出演◎ゲスト：豊竹始大夫(太夫)、竹澤團吾(三味線)、桐竹紋臣(人形)ほか 司会：徳永玲子
 チケット発売日◎9月7日(月)
 チケット取扱い◎
 ・福岡市文化芸術振興財団 092-263-6265(平日 10:00-17:00)
 ・文化芸術情報館アトリエ(福岡アジア美術館 7F)水曜休館
 お問い合わせ◎
 福岡市文化芸術振興財団 092-263-6265(平日 10:00-17:00) / ffac-02@ffac.or.jp

お知らせ 情報交換の場としてぜひご活用ください

WEBアトリエで みつめてつながる!



WEBアトリエ
<http://artlier.jp>

検索



●ユーザー登録して、文化芸術に関する情報を無料で掲載できる投稿型WEBサイト ●イベントや展覧会などの情報を収集できるアート系情報サイト

セミナー

アートマネジメントセミナー

地域で活動するアートマネージャーの人材育成と発掘、及びそのネットワーク化を目的とし、平成15年度より開催しているアートマネジメントセミナー。7月のキックオフイベントを経て、10月から月1回ペースで開催する連続講座では、地元・福岡の方々に講師としてお招きし「地域ならではのアートマネジメント」をテーマに学びます。



キックオフイベントの様子

日時◎平成27年10月～2月/計7回予定
会場◎(公財)福岡市文化芸術振興財団 会議室ほか
定員◎15名(要事前申込) ※応募者多数の場合は抽選を行います。
対象◎アートマネージャー(経験不問)、アートマネジメントや文化芸術に興味のある人

スケジュール◎

- 10月10日(土)10-16時 思考の整理1「思考をコンセプト化するための企画書づくり」
- 10月22日(木)19-21時 思考の整理2「チラシづくりに学ぶ企画の編集/演出/発信術」
- 11月26日(木)19-21時 福岡を知る1「福岡でアートにかかわる」
- 12月10日(木)19-21時 福岡を知る2「広い視点でまちと向き合う」
- 1月14日(木)19-21時 アートと社会1「アートの国際舞台と福岡」
- 2月10日(水)19-21時 アートと社会2「誰かにとって必要なアートのかたち」
- 2月27日(土)10-16時 報告会「企画のスタートラインに立つ」

主催◎(公財)福岡市文化芸術振興財団、福岡市

助成◎一般財団法人 地域創造

◎申し込み方法・詳細はウェブサイトにてご確認ください。 <http://www.ffac.or.jp/>

お知らせ

ミュージアムショップ ロンホア リニューアルオープン

福岡アジア美術館内ミュージアムショップが7月16日にリニューアルオープン!美術館ならではのユニークなアートグッズやアジア近現代美術関連の出版物などを販売しています。



ご来館の際には、是非お立ち寄りください。

お問い合わせ◎

福岡市博多区下川端町3-1福岡アジア美術館7階
TEL 092-292-1008

演劇

演劇大学 in 福岡 ～語りだす沈黙×小泉八雲～ 参加者募集!

演劇を創り、勉強し、語りあうイベント、演劇大学 in 福岡。今年は「語りだす沈黙×小泉八雲」をテーマに、合宿劇団体験、仮面劇、舞踏など多彩な講座をご用意。演劇に興味がある方なら未経験でも大歓迎!ふるってご応募ください。



日程◎10月7日(水)～10月12日(月・祝)

会場◎ゆめアール大橋、春日クローバープラザ ほか

参加費◎有料(講座による)

講座内容◎3泊4日の劇団体験、仮面劇、舞踏、ほか

(最終日には街頭発表、シンポジウムあり)

主催◎文化庁/一般社団法人日本演出者協会

◎詳しくはHPでご確認下さい。

<http://artlier.jp/events/detail492.html>

pick up goods

「金印キューブ」販売中!

特別展「新・奴国展」(福岡市博物館)公式グッズとして、新商品「金印キューブ」(税込3,996円)を販売します。アクリル樹脂の中に金印レプリカを入れたもので、観賞用としてもペーパーウェイトとしても。

販売場所◎福岡市博物館ミュージアムショップ/福岡市文化芸術振興財団(郵送販売のみ)/

期間限定 吉野ヶ里公園「弥生暮らし館」(9/19～11/8)

お問い合わせ◎福岡市文化芸術振興財団(担当:山本) TEL:092-263-6264 Email:plaza-b@ffac.or.jp

半期入会受付中!

平成27年度

賛助会「わの会」

【募集会員・有効期間・会費】

個人会員◎半期(平成27年10月1日～平成28年3月31日)1,500円

法人会員◎全期のみ(平成27年4月1日～平成28年3月31日)10,000円

【受付場所】

文化芸術情報館アトリエ(福岡アジア美術館7階)

福岡市博物館ミュージアムショップ

福岡市美術館ブックショップ

<http://www.ffac.or.jp/wa/>

【問い合わせ】

☎092-263-6257 E-mail◎wa@ffac.or.jp

FFAC レポート

第一線で活躍するアーティストと一緒に
子ども達がダンスや演劇をつくるワークショップ「アーティストとつくる」が開催されました。
夏の暑さに負けない子ども達の熱気に溢れた6日間をレポートします。

平成27年度 子ども文化芸術魅力発見事業 アーティストとつくる ダンス編&えんげき編

8月4日(火)~9日(日)13:00~17:00

「アーティストとつくる」は小学4、5、6年生を対象とした、ダンスや演劇の作品づくりに挑む企画です。ダンス編に20名、えんげき編に15名、合計35名の小学生が一冊の絵本を題材に、自分でアイデアを考え、プロのアーティストとオリジナル作品を創作し発表しました。会場では、出演者の家族や一般の観客130名が集まって、熱のこもった発表を鑑賞しました。

会場◎パピオ ビールーム

主催◎(公財)福岡市文化芸術振興財団、福岡市

後援◎福岡市教育委員会、平成27年度文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

アーティスト◎	 <p>ダンス編 康本雅子 振付家・ダンサー 撮影：Hideto Maesawa</p>	 <p>えんげき編 柴幸男 劇作家・演出家 撮影：源賀 津己</p>	 <p>音楽 高橋英明 音楽家</p>
---------	---	--	--

稽古中◎ えんげき編

- ≡ アーティストは「どう思う?」「どうしたい?」と子ども達の意見を聞き真剣に受け止める。演劇やダンスをつくるのに大人も子どもも関係ない。



稽古中◎ ダンス編

- ≡ 初日は緊張気味だった子ども達もプログラムが始まり、体を動かすことで徐々にほぐれてきた。ちょっと恥ずかしいけど、大きな動きをしてみたり、テンポのいい音楽にのって笑顔も出てきた。



本番◎

- ≡ 「本番!」の声がかかると、ぴりっと緊張が走る。演技に集中する子ども達。真剣なみんなの表情、きらきら輝いていました!



写真：園田裕美

- ≡ 後半はダンスチームとえんげきチームが融合してみんな一緒に踊る。動きも演技も子どもとは思えない堂々とした舞台でした。全員でダンスも演劇もやりきった!



写真：園田裕美

舞台裏のお話

参加した子ども達は、演劇やダンスの経験がある子もいない子もいましたが、みんな元気すぎるほど元気で、時には意見が合わなくてケンカも起きるほど。ただ、「自由にやってみよう!」と言うと、さっきまで弾けていた身体がまるで正解を探すかのようにぎこちなくなってしまう。アーティストの康本さんも柴さんも、声掛けの言葉や促し方は異なりますが、子ども達が自信を持って自分を表現できるように、1人1人に丁寧に向き合っている様子が印象的でした。最終日に行った発表会では、大勢の観客の前でも、子ども達みんなの全力が出た力強い作品になったように思います。この事業に参加したことで、子ども達に作品づくりの醍醐味を感じてもらえたのであれば、また、自己表現や仲間と協力することの大切さも体感できたのであればうれしく思います。

事業コーディネーター 宮崎麻子

学芸員

Curator Chat



おしゃべりな

森本 幹彦

福岡市博物館

『新・奴国展』の面白い話

アジアのリーダー都市をめざす福岡市は、約2000年前(弥生時代)の「^{なこく}奴国」という王国がその歴史的な原点です。日本がはじめて世界史に登場する時代であり、金印「^{かんのわのなのこく}漢委奴国王」はまさにそのモニュメントです。

金印の時代(西暦57年)よりも約100年古い奴国王の墓が春日市の須玖岡本遺跡でみつかっています。多くの出土品の中でも草葉文鏡と呼ばれる大きな鏡は古代中国の王侯が持つアイテムで、王の証しといえます。明治時代に発見され、破片となって全国に散ってしまいましたが、文化財部赤坂さん(元・博物館学芸課)が丹念に追跡調査をしました。原品はかき集めても足りないパーツが多いのですが、詳細な復元図によって、ありし日の姿がよみがえりました。さらにその図面をもとに、草葉文鏡をチョコレートで再現したのが「商品開発部」の本田学芸員です。実はこのチョコレート、特別展に関連する企画の試作品第2号になります(1号は金印)。さて、福岡市博物館では開館25周年を記念して、『新・奴国展～ふくおか創世記～』を開催いたします。チョコレートで铸造体験の企画も準備しておりますので、こちらも乞うご期待です。

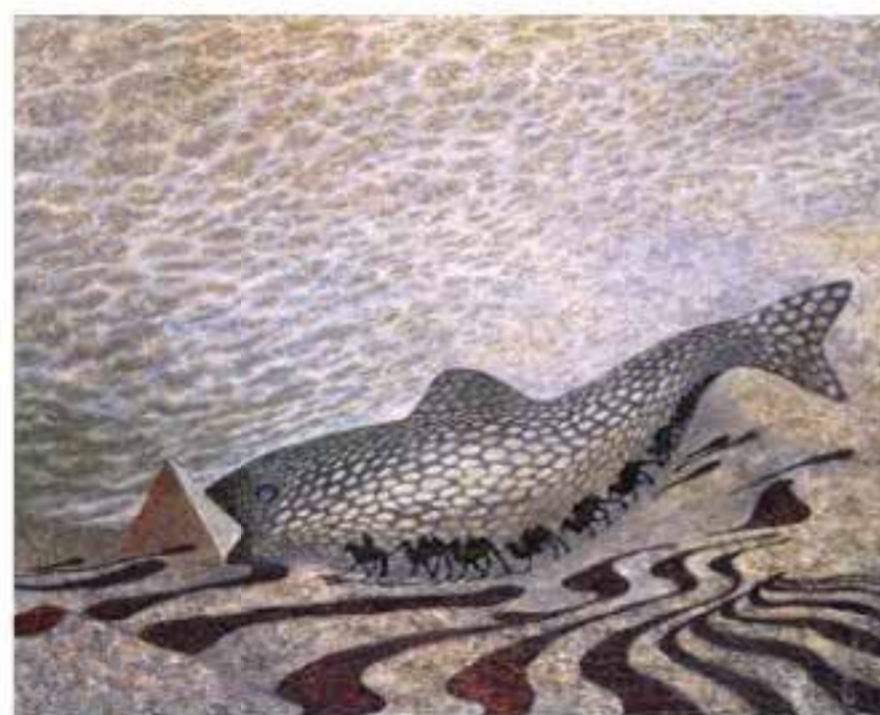
15



草葉文鏡のチョコレート
直径23cm、
右は金印チョコ



新・奴国展公式キャラクター
右がナコピン、
左がナコポン



ツェレンナドミティン・ツェグミド
(モンゴル)「キャラバン」1994年

福岡アジア美術館

9月3日(木)～12月15日(火)

フシギ?の世界—ここではないどこかへ

まるで魔法をかけられた世界に迷いこんでしまったみたい!?私たちのあたりまえの日常が思いがけない姿で見えてくる作品、視覚的に惑わされるようなゆがんだ世界の作品など約50点の絵画作品をとおり、ヘンテコな不思議の世界へお連れします。

招待券
5組
10名様

※締切9月25日(金)



左:国宝 金印「漢委奴国王」
(福岡市博物館)
右:県指定文化財 銅矛と銅戈
(筑前國一之宮住吉神社)

福岡市博物館

10月17日(土)～12月13日(日)

開館25周年記念
新・奴国展

約2,000年前の福岡平野には、中国の歴史書にも登場する「奴国」と呼ばれる王国がありました。当館が所蔵する金印は、奴国王が国際的に認められていた証しであり、奴国は日本列島の代表的な国でした。本展覧会では全国に散らばる奴国の優品を一堂に集め、東アジアの豊富な考古資料とともに、その激動の時代にせまります。

招待券
5組
10名様

※締切10月9日(金)



国宝「^{くろひめ}曜変天目茶碗」
中国・南宋時代 12・13世紀 藤田美術館蔵
/撮影 三好和義

福岡市美術館

10月6日(火)～11月23日(月・祝)

藤田美術館の至宝
国宝 曜変天目茶碗と日本の美

世界に3碗しか現存しないといわれる国宝「曜変天目茶碗」をはじめ、茶道具、仏教美術、書蹟、近代絵画、染織、考古資料など、日本屈指の東洋・日本美術コレクションを誇る藤田美術館の至宝、全124件(国宝6件、重要文化財25件を含む)を九州初公開します。

招待券
5組
10名様

※締切9月25日(金)



螺鈿紫檀五絃琵琶 唐時代8世紀 正倉院宝物
[展示期間10月18日(日)～11月3日(火・祝)]

九州国立博物館

10月18日(日)～11月29日(日)

九州国立博物館開館10周年記念特別展
「美の国 日本」

本展は縄文時代から鎌倉時代の日本美術の至宝を紹介し、日本の美の形成の歩みを東アジア世界との文化交流史の観点から象徴的に捉えようとする試みです。古代における東西交流の象徴である正倉院宝物が10年ぶりに特別出品されるのも見どころです。

招待券
5組
10名様

※締切10月9日(金)



ピート・モンドリアン《砂丘》1909年
石橋財団プリチストン美術館蔵

石橋美術館

7月18日(土)～10月18日(日)

コレクション展示
ちょっと気になる絵のまわり

これまで触れることのなかった額縁や、表装の世界にスポットをあてた展覧会。長期休館に入ったプリチストン美術館のピサロ、モネ、ルノワールなどの作品25点に、おなじみの石橋美術館の作品を合わせ、約110点の新たな魅力に出会うコレクション展示です。

招待券
5組
10名様

※締切9月25日(金)

読者プレゼント

下記を明記の上郵便ハガキ、ファックス、またはメールにてご応募ください。

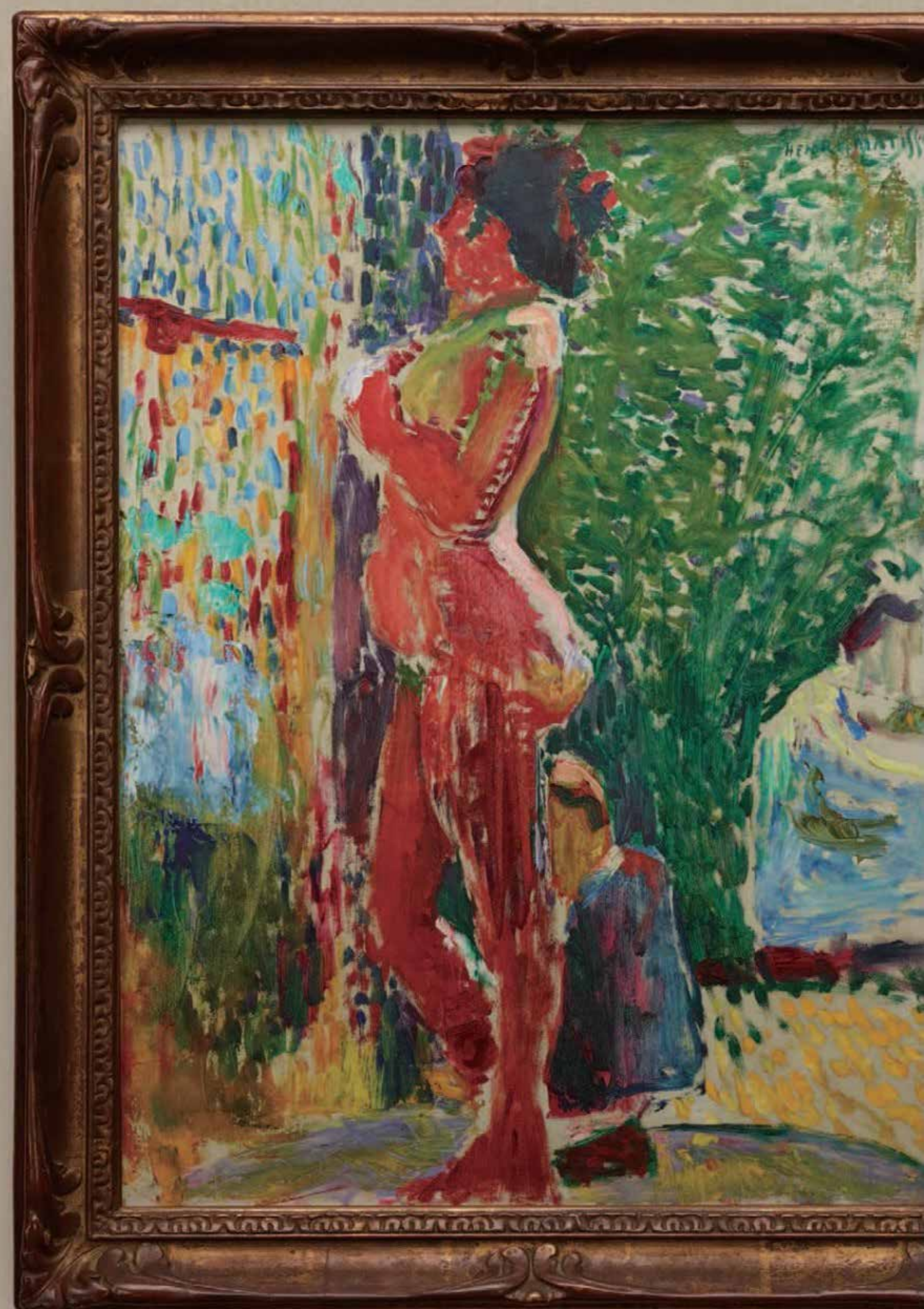
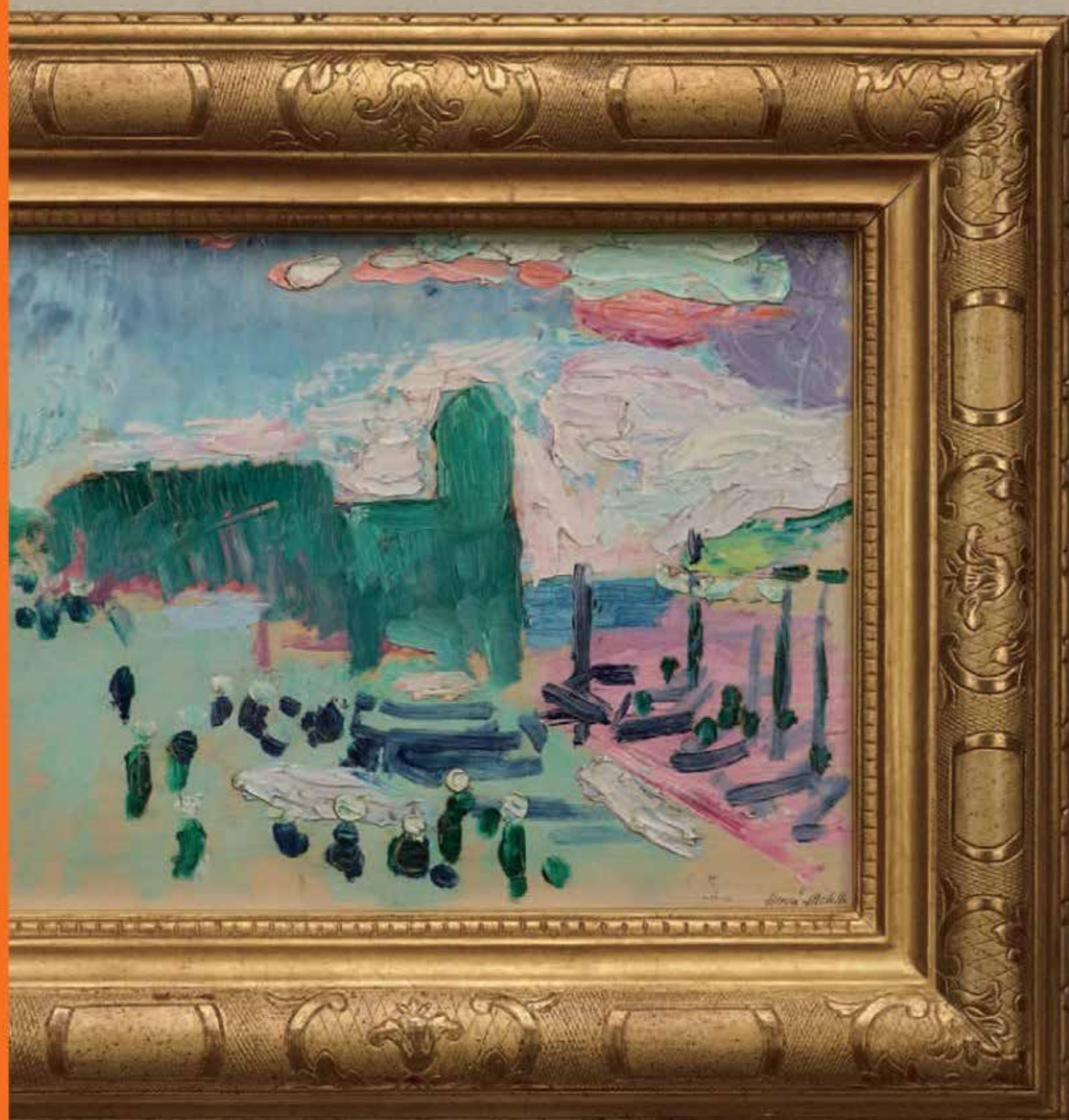
- ご希望のプレゼントの美術館・博物館名
- 住所・氏名・年齢・電話番号
- Waを手にした場所
- 良かったページ
- 興味が無かったページ
- 本誌以外で、アートに関する情報をどこから得ていますか
- 本誌や財団に期待する事ご意見など

福岡市文化芸術振興財団「wa」編集部
応募先 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-10 福岡県消防会館6F
FAX: 092-263-6259 E-mail: pr-co@ffac.or.jp

Henri Matisse, Paul Gauguin, Alfred Sisley,
Camille Pissarro, Claude Monet, Pierre-Auguste Renoir,

What About the Periphery ?

Tsuguharu Fujita, Ryusei Kishida, Takeji Fujishima,
Shigeru Aoki, Harue Koga ...



コレクション展示

ちょっと気になる絵のまわり

'15 7.18_{sat} - 10.18_{sun}

開館時間：10:00 - 17:00 (入館は16:30まで) 休館日：月曜日 (9/21, 10/12は開館)

入場料：一般 500 (400) 円、シニア 300 (200) 円、大高生 300 (200) 円、中学生以下無料 ※シニアは65歳以上 ※()内は15名以上の団体料金
※前売券は、チケットぴあ、ローソンチケット取扱い店などにて300円で販売 (Pコード 766-540、Lコード 81978)

主催：石橋財団石橋美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送 後援：久留米市、久留米市教育委員会、公益財団法人久留米文化振興会
〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015 TEL 0942-39-1131 URL <http://www.ishibashi-museum.gr.jp/>

左 アンリ・マティス《コリウール》 右 アンリ・マティス《画室の裸婦》 いずれも石橋財団ブリヂストン美術館蔵

福岡から久留米まで電車で約30分！ ※西鉄・特急、JR・快速ご利用の場合